

日頃、一般社団法人日本 IHE 協会の活動にご協力をいただきありがとうございます。

日本 IHE 協会では、下記の二つのセミナー、チュートリアルを予定しております。

1. 6月16日(土)に東京(シスコシステムズセミナールーム)で IHE-PCHA 共催セミナー

「IoT時代の健康情報・医療情報の連携について」(第67回 IHE 勉強会)の開催を予定しております。

主旨:

「近年、ご家庭で使用する血圧計や、体重計からデータを出力できる製品も出てきており、計測した血圧や体重等をスマートフォン等で管理できるようになってきています。スマートフォンの中には、心拍数や、酸素飽和度なども測れる機種が出始めています。IoTが叫ばれる中、行政では「医療等 ID」の法案化など基盤整備の検討も進んでいると聞いており、家庭における健康機器のデータとクリニックや病院での診療データの連携も現実的なものとなりつつあります。

医療機関における診療情報に関しては医療情報学会をはじめ各学会や工業会等でも盛んに議論されてきましたが、家庭内における健康情報に関しては、規格化は進むものの、運用への展開は今一步という感があります。

この度、5年後10年後の健康情報・医療情報の管理に関して、家庭内の健康情報と医療機関における診療情報のデータ連携に関しての勉強会を開催することといたしました。」

申し込みは <https://ihe-j.sakura.ne.jp/event-info/modules/eguide/event.php?eid=55> よりお願いいたします。

2. 6月21日(木)に新潟(第22回日本医療情報学会春季学術大会会場)で IHE チュートリアル「IHEの新しい応用分野」の開催を予定しております。

主旨:

「2016年4月より、ネットワーク利用による地域連携での診療報酬加算が始まり、今後、様々な形の地域連携システムが普及すると考えられる。地域連携システムは、相互運用性を考えると、高度の標準化が必要であり、世界標準の地域連携の方法としては IHE が中心となってまとめ、厚生労働省標準規格となった「地域医療連携における情報連携基盤技術仕様」がある。この技術仕様は、XDS (Cross-enterprise Document Sharing) や XCA (Cross-Community Access) などの統合プロファイル群である。また、技術仕様は毎年拡張されており、今後、XDS-SD, PWP, SVS, XUA などの追加の可能性がある、これらについて解説する。XDS や XCA を実装するためには、システムが大がかりとなり、導入コストがかかることが指摘されている。この導入コストを減らすために、IHE では netPDI と呼ばれている導入の容易な地域連携システムについても提案している。この netPDI は、すでに静岡県の数施設で稼働しており、その概要について説明する。

最近では Mobile 機器に地域連携機能を実装するために、IHE を利用することが検討されており、HL7 では Fast Health Interoperable Resources (FHIR) が開発され、IHE はこの FHIR を利用して、新しいプロファイルが開発されつつある。このようなモバイルに関する標準化を解説し、FHIR 関連の IHE プロファイルについても解説する。」

申し込みは、<https://ihe-j.sakura.ne.jp/event-info/modules/eguide/event.php?eid=54> よりお願いいたします。

それぞれ、ご興味のある方は、上記の URL を確認して、奮ってご参加ください。